

さわやかな風にのせて 学校だより

けいせい

帯広市立啓西小学校

どんだん(活動する子)

わくわく(感動する子)

いきいき(表現する子)



令和元年5月9日発行

わくわく

学童農園

10連休明けの5月7日(火)、2年生の願いが通じて雨が上がり、生活科の時間に帯広の森にある農園に出発!!



広くてフカフカの畑に驚きながら、一人2粒ずつ、「大きくなってね」と願いを込めて、トウモロコシの種を植えました。

収穫するのは9月頃。それまでに、2年生も“どんだん”“いきいき”成長して、感動の再会ができますように。

春の避難訓練

全校児童が真剣に参加!

「訓練は、練習ではありません。」校長先生のお話にも、真剣な眼差しで聞き入る全校児童。

5月8日(水)の火災を想定した避難訓練は、直前に降り出した雨のため、急遽、避難場所を体育館に変更しましたが、子ども達は目的をしっかりと理解して、緊急放送と担任の指示をしっかりと聞きハンカチで口を押さえながら、整然と避難することができました。

実際に火災や地震が起こった場合は、雨でも雪でも-20℃でも屋外に避難することになるかもしれません。春の火災予防運動は4月末で終わりましたが、ご家庭でも折に触れて、「一人で家にいる時に、火災/地震が起こったら、どのように身を守るか」「火事を出さないためには、どうしたらよいか」などについて、ぜひ、お話し合い下さい。



6月の行事予定

| | | |
|----|---|----------------------------------|
| 1 | 土 | |
| 2 | 日 | 市内中学校体育祭 |
| 3 | 月 | 見守り▶2の2 |
| 4 | 火 | 運動会係活動② |
| 5 | 水 | 運動会総練習 |
| 6 | 木 | |
| 7 | 金 | 見守り▶1の1 運動会前々日準備(4時間授業) |
| 8 | 土 | 運動会座席取り |
| 9 | 日 | 第53回大運動会 |
| 10 | 月 | 振替休業日 |
| 11 | 火 | 見守り▶1の2 運動会後片づけ |
| 12 | 水 | |
| 13 | 木 | (5/17の遠足予備日) ALT |
| 14 | 金 | 見守り▶6の1 ALT |
| 15 | 土 | 啓西ぼけっと～企画の日 市P連役員研修会 |
| 16 | 日 | |
| 17 | 月 | 見守り▶6の2 プール(2・5年) |
| 18 | 火 | |
| 19 | 水 | 歯科検診 |
| 20 | 木 | 耳鼻科検診(1年) クラブ① |
| 21 | 金 | 見守り▶5の1 児童会③ |
| 22 | 土 | 啓西ぼけっと～体育館自由遊び |
| 23 | 日 | |
| 24 | 月 | 見守り▶5の2 プール(1・3年) 給P費納入日(高学年) |
| 25 | 火 | 給P費納入日(中学年) |
| 26 | 水 | 給P費納入日(低学年) 自転車教室(1年) |
| 27 | 木 | 給P費納入日(予備日) クラブ② |
| 28 | 金 | 見守り▶3の1 |
| 29 | 土 | 啓西ぼけっと～体育館自由遊び |
| 30 | 日 | |

～安全メールの登録をお願いします～

お子様の安全に関する情報や行事の雨天順延など、様々な情報を迅速に配信します。ぜひ、ご登録を!

☆ヘルプデスクは啓西小 ☎34-4659です☆

複数の目で
(人のシャワー)

～「チーム」と「組織対応」重視で 学校の力を高めます～

「学級通信に込めた思い」

～キラキラ学級・ドリーム学級編～

虫の目で
鳥の目で

キラキラ学級

「キラキラ だより」

開設5年目を迎えたキラキラ学級では、
「あかるい子、やさしい子、げんきな子」を
学級目標にしています。
キラキラした子ども達の様子をお伝えします！



担任 瀬口 玉季 教諭



担任 小松 翔 教諭



担任 山田 裕美 教諭

ドリーム学級

「いきいき のびのび」

夢を持ち続け、夢に向かって
自分らしく歩んでいく、元気いっぱい
笑顔あふれるクラスを目指します！



担任 藤倉 浩子 教諭



担任 中村 希和 教諭



担任 小林 鉄平 教諭



担任 須田 慎二 教諭

琴線

「子は大人の鏡」

20年ほど前に出版された南カリフォルニア在住の教育家、ドロシー・ロー・ノルト博士の著書『子どもが育つ魔法の言葉』の中で紹介された詩の題名です。多くの学校でPTA図書として書棚に並んでいましたから、お読みになった方も多いでしょう。

例えば、詩の中には「とげとげした家庭で育つと 子どもは乱暴になる」という一節があります。私達、教師は＜家庭＞を＜学校・学級＞と置き換えて考え、その逆を目指します。つまり「和気あいあいとした学級の中で育てば、子どもはきっと・・・」という具合です。

また、著書には英語で「Children Learn What They Live」と副題が添えられています。子ども達は自分を取り巻く人生(環境)から学んでいく・・・というような意味だと思いますが、「人は自分が教えられたように人に教える」等と言われるように、児童虐待の連鎖や教師による体罰等も、その延長線上にあると言えるでしょう。

親も教師も子どもにとって最も身近なお手本となるべき存在です。親がSNSで人の悪口を発信すれば、子どももそれを真似るでしょう。教師が乱暴な言動で子どもを指導すれば、子どもは自分より弱い存在に対して同じように振る舞うでしょう。大人社会からいじめや差別がなくなるのに、どうして子どもの世界からいじめをなくすることができるのでしょうか・・・。

このような認識をお互いに共有しながら、学校と家庭が両輪となって子ども達を育てていくことができるよう、学校と家庭の信頼関係を築いていきたいと考えています。ご理解とご協力をお願いいたします。